

ヤマザキ動物専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

令和2年7月8日

1.日時 令和2年7月8日(水) 10:30~11:30

2.場所 ヤマザキ学園 渋谷キャンパス2号館 153教室

3.出席者

(1)学校関係者評価委員 任期は何れの委員も1年

島津 裕美 (環境省自然環境局総務課動物愛護管理室 当該分野専門家)、委員長

花田 道子 (ヤマザキ動物看護専門職短期大学 学科長 当該分野専門家)

(2)委任出席 (事前に評価に対する意見を事前聴取)

井上 留美 (ヤマザキ動物専門学校 同窓会会長)

古本 友美 (ヤマザキ動物専門学校 保護者)

(3)専門学校出席者

山北 宣久 (ヤマザキ動物専門学校 校長)

山口 博文 (ヤマザキ動物専門学校 副校長)

橋本 直子 (ヤマザキ動物専門学校 教育部長)

佐藤 恵子 (ヤマザキ動物専門学校 事務部長)、書記

井上 桃子 (ヤマザキ動物専門学校 事務部教務・学生課長)

(4)オブザーバー

藤波 由香 (ヤマザキ動物専門学校 動物看護課長)

(5)委員からの評価と質問及び回答

■教育目標と本年度の重点目標の評価

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
学校の教育理念・目標はゆるぎないものと引き継がれており、重点目標は3つのポリシー、特にカリキュラムポリシーに基づくものが主体で、より具体的な内容として網羅されていて、わかりやすく易くまとめられている。	今後も教育理念・目標に沿った学生指導を行っていく。
成績評価に GPA による厳格な成績管理が退学者の軽減に功を奏したか、不明である。かえって、クラスアドバイザー・アシスタントアドバイザーの面談の際に成績重視で双方の負担にならなかったのか懸念する。これが統一試験合格率の良い専門学校として有効であることを願いたい。	退学の理由は心の問題や経済的問題がほとんどであるため、GPA 導入によるものではない。動物看護師統一認定試験の受験資格を得、さらに合格するためには、日ごろから勉強が必要不可欠である。しかし学生の中には目標を変更する場合もあることから柔軟に対応している。

■基準1. 教育理念・目標・育成人材像

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
3つのポリシーが正しく丁寧に書かれており、それを特記事項でさらに補足されていてわかり易い。さらに理念・目的・育成人材像は学校案内や学則に規程されており、3つのポリシーに関してはホームページ上でも明確にされているので十分と思われる。	今後もポリシーに沿った教育を行い、質の高い人材の育成を行っていく。
社会のニーズを踏まえた中長期構想も具体的に書面をもって伝えているのがわかり、努力がうかがえる。	社会のニーズを踏まえ、より一層の努力を重ねていく。

■基準2. 学校運営

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
学校運営に関しては、各委員会で検討され、連絡会を通して情報共有されていることがわかる。	今後も継続する。
運営方針、事業計画、運営組織は委員会や部長会等での検討や発表による周知、さらに規程によるものと理解できる。	今後も継続する。
意思決定システムや情報システムは各種委員会との適切な運用と効果的なシステムにより運用されていると理解する。	今後も継続する。

■基準3. 教育活動

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
現カリキュラムは統一機構の新カリキュラムに準拠していることもあり特段意見はないが、移行したことにより減った実習部分については今後何かしらの対策が必要になってくるの	国家資格カリキュラムが発表され次第、検討材料としたい。

ではないか。	
教務委員会、カリキュラム編成小委員会と学校関係者評価・授業評価アンケート等により、整備・検討が重ねられていることがわかる。	今後も継続する。
目標の設定は委員会を通して行われ、教育方法・評価は今後の国家資格化に向けた対応を取り、評価に関しては、学校関係者評価や教育課程編成委員会からの意見、学生からの要望にも対応しているようである。	学校関係者評価や教育課程編成委員会からの意見や学生からの要望に対応し、今後も改善に努める。
成績評価・単位認定は基準を明確にし、今期より、GPA による成績管理を導入したとのことであるが、効果を見守りたい。	今後、効果を検証していく。
資格免許取得の指導体制にもより一層力を入れてもらいたい。	教職員一丸となって資格取得の指導にあたっていく。
教員・教員組織としては、専任教員が多い方が理想である。それが教職員のモチベーションにも関係してくる。	ご指摘を受け、今後の改善を検討する。
近い将来予定されている国試カリキュラム導入の際は、教科書の指定を図ってはどうか。	国試対応教科書が販売された時点で検討する。

■基準4. 学修成果

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
就職率は全卒業生に対し 88%、就職希望者のうち 96%と好成績で良いが、そこに入らない 12%と 4%に対するフォローが気になる。	就職希望でない 12%の内訳は、大学編入、結婚、卒業目標及び就職を希望しない者である。未決定者の 4%については、卒業後も支援を継続している。
統一試験の合格率は 95.4%で、先生方、職員の方の努力の成果も大きく学生もよくそれに応えていると感じる。	ご意見として伺った。
就職希望の 96%と高い就職率のとのことだが、こちらに入学前の説明会でもこの実績を知り、入学への強い気持ちが高まった。これからは就職への支援をぜひ続けて頂きたいと思う。入学直後は専門的な勉強に対して、生徒たちも漠然としていると思うので、資格取得という目標に向けて、もっと意識できるよう先生方のバックアップをお願いしたい。	今後も高い就職率を維持できるよう、学生一人一人と向き合って就職指導を続けていく。 資格取得についてはご指摘を受け、改善を検討する。

■基準5. 学生支援

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
退学防止の取組として、学期途中や夏休み明け等でアンケートを取る等の、生活を見直す手段は何か取っているか。また、退学の理由はどのようなものか。	教職員で日々の欠席状況について情報共有をし、長期欠席者に対しては、クラスアドバイザーから連絡を取り、状況把握をしている。 退学の理由は、学習意欲低下、進路変更、体調不良（心の健康悪化含む）、経済的理由であった。経済的理由の対応としては、入学前に学費や諸経費について理解して頂くよう努め、必要であれば奨学金制度の利用も案内している。
GPA の数値だけで指導してしまうのではなく、数値に見えない部分の良さを伸ばしてあげられないか。専門学校なので、成績だけにとらわれない評価やフォローをプラスすると退学者の軽減にもつながるのではないか。	今後の改善を検討する。
1 年次の退学防止のために入試方法を見直す必要があるのではないか。	高校時代の成績と入学後の成績がリンクしていないことも多く、学力だけで評価することは難しい面もあるため、今後の課題としたい。
卒後教育として国家試験対策の内容を準備しておく必要がある。オンラインのみのなのか、手段が決まり次第、早めの告知をした方が良い。	今後の課題とし、国家試験についての情報が入り次第、随時対応を検討していく。
卒業生との連携が少ないように感じる。卒業生のネットワークをもっと活用し、再就職窓口や卒業生向けの求人紹介についての告知や同窓会組織の活発化を図った方が良い。	今後の改善を検討する。
クラスアドバイザー・アシスタントアドバイザー制度により、たくさんの学生支援で出来ているので、その存続が望まれる。	今後も継続する。
在校生に対する面談・指導により、中途退学者の減少、学生生活の充実が図られ、また保護者も連絡による情報把握を望	クラスアドバイザーによる定期的な面談・指導に加え、保護者とも連携しながら対応

んでいると思われる。	にあたっていく。
卒業生、社会人との交流が学び直しだけでなく、卒業生との連絡（再就職は特に本校へ連絡）が大切と考える。	今後の改善を検討する。
就職に関して、学生全体に説明会のようなものを早いうちから数回実施すると良いのではないかと。就職活動に対して不安なく学生たちが活動できるようにお願いしたい。	今後の改善を検討する。
保護者との連携については、面談や相談の機会以外に、保護者が学校に足を運ぶ機会がもう少しあると良いと感じる。学園祭だけでなく、授業参観のような自由に授業を観覧できる学校週間のような、子供たちがどのように勉強しているのか見るチャンスがあると良いと思う。	今後の改善を検討する。

■基準6. 教育環境

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
学生のために図書館（エバーグリーンライブラリ）の竣工が行われたが、利用のしやすさも今後検討を考えてあげてほしい（開館時間等）。	専門職短期大学と共用の施設となるため、専門職短期大学と相談しながら今後の改善を検討する。
学外実習・インターンシップは併設のコンパニオンアニマルセンターの活用もさらに充実できると良い。	今後の改善を検討する。
防災・安全管理は学内・学外両方の対策マニュアルを学生・教職員に周知させることをより一層進めていくべきであろう。学校側は備品の管理が重要と考える。	今後の改善を検討する。
設備・施設の劣化に対しては、早めの対応が必要であると考え。渋谷キャンパス2号館は増築工事が予定されているが、引き続き経年劣化に伴うプロジェクター及び空調設備の取り換え等を実施し、学習環境整備の必要がある。	中長期構想委員会を通じて、法人と相談しながら計画をしていく。

■基準7. 学生の募集と受入

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
学生募集活動は、学校案内、募集要項内容を他専門校より同法人との関連と比較の明確化することに力を入れ、オープンキャンパスや学校説明会は、教職員のさらなる協力を学内外で得られるよう呼びかけが大切と考える。	今後の改善を検討する。

■基準8. 財務

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
財務に関しては、適正に行われているとの認識があるのみで、特に意見はない。	今後も継続する。

■基準9. 法令等の遵守

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
関係法令、設置基準については各規準にのっとり、不明な事柄は関係各所に相談し指示を仰いでいると思われる。	今後も関係各所に指示を仰ぎながら適正に対応していく。
学校評価は自己評価の実施体制を作り、ホームページにも公表し、学校関係者評価委員会の委員により確認され、そこで出た意見を学校運営に役立てているようであり、問題はない。	今後も継続する。

■基準10. 社会貢献・地域貢献

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
社会貢献、地域貢献は、開催の実績があるので貢献度は相当量あると思われる。	今後も継続する。
ボランティア活動に参加する学生の活動にも、教職員も地域の方とも連携して実施しているという認識を持っている。	今後も継続する。

記録／事務部 佐藤恵子